

(様式 2)

履 歴 書

年 月 日現在

（ふりがな） 氏 名	〇〇 〇〇	印	生年月日 和暦（西暦）	昭和〇〇年〇〇月〇〇日生（〇〇歳） （旧姓）
現 職	◎◎大学 □□学部 講師	押印を お願い します。	連絡先	〒000-0000 〇〇市××町△丁目□番地 電話（000）-0000-0000 メールアドレス 0000@000.ne.jp
現 住 所	〒000-0000 ■■市◇◇町△丁目×番地 電話（000）-000-0000			
学 歴 和暦（西暦）	昭和〇〇年（△△△△年）〇〇月 ■■高等学校 卒業 昭和〇〇年（△△△△年）〇〇月 △△大学薬学部 入学 平成〇〇年（△△△△年）〇〇月 同 卒業 平成〇〇年（△△△△年）〇〇月 △△大学大学院薬学研究科（〇〇系）入学 平成〇〇年（△△△△年）〇〇月 同 修了			
学 位 和暦（西暦）	平成〇〇年（△△△△年）〇〇月 博士（××学）（〇〇大学 第〇〇号） 「〇〇〇〇〇〇〇に関する研究」 学位論文の題目を併記してください。			
免許・資格 和暦（西暦）	平成〇〇年（△△△△年）〇〇月 薬剤師免許取得（登録第〇〇〇〇〇〇号）			
職歴・研究歴 和暦（西暦）	平成〇〇年（△△△△年）〇〇月 △△大学□□学部 助教 勤務 平成〇〇年（△△△△年）〇〇月 △△大学□□学部 講師 勤務 平成〇〇年（△△△△年）〇〇月 △△大学□□学部 講師 退職 平成〇〇年（△△△△年）〇〇月 ◎◎大学□□学部 准教授 勤務 現在に至る			
賞 罰 和暦（西暦）	平成〇〇年（△△△△年）〇〇月 ××学会 ◎◎賞受賞			
本書類の記載内容については事実に相違なく、虚偽の記載があった場合には、採用取消や懲戒処分等の対象となり得ることについて了承します。 令和〇〇年△△月△△日 氏名 〇〇 〇〇 印				

【記入上の注意】

※ 賞罰欄には、過去に学生に対するセクシュアルハラスメントを含む性暴力等を原因として懲戒処分もしくは分限処分を受けた場合には、処分の内容及びその具体的な事由を必ず記入すること。

記 載 例

(様式 3)

著 書	
番 号	(単著) 著者、書名、総頁、発行所、発行地、発行年 (共著・分担執筆) 著者名、分担題目、書名、編者名、初頁～終頁、発行所、発行地、発行年
1	(単著) <u>華岡太郎</u> * : 「卵巢の内分泌学」 総406頁、診断と治療社、東京、1995
2	(分担執筆) Herman R, Freedman W, Monster AW and <u>Hanaoka T</u> * : A systematic analysis of myotatic reflex activity in human spastic muscle. In “New Development in Electromyography and Clinical Neurophysiology” (Ed.) Desmedt JE, pp 556-578, S Karger, Brussels, 1994

原 著	
(審査機関を有する学術誌に掲載の論文に限る。学会抄録などは含めない。)	
番 号	著者名、題名、誌名、巻、初頁～終頁、年、I F、C I
1	<u>華岡太郎</u> 、和歌浦花子* : 糖尿病患者の色覚異常について. 糖尿病 33: 675-680, 1993
2	Wakaura H and <u>Hanaoka T</u> * : Sensory response of cortical neurons in the anterior ectosylvian sulcus, including the area evoking eye movement. Brain Research 575: 181-186, 1996 IF=2.389 CI=21

総 説	
番 号	著者名、題名、誌名、巻、初頁～終頁、年、I F、C I
1	<u>華岡太郎</u> * : 痛みの分子生物学ーペプチド発現と細胞性癌遺伝子. ペインクリニック 12:17-24, 1990
2	和歌浦花子*, <u>華岡太郎</u> : 動脈硬化巣におけるコラーゲンおよび関連酵素の分布. 動脈硬化 19:601-604, 1991
3	<u>Hanaoka T</u> *, Wakayama H and Minakata K: Neurogenic control of cerebral circulation. Journal of Cerebral Blood Flow & Metabolism 29: 1655-1667, 2009 IF=5.673 CI=96

記 載 例

学 会 発 表 (国内学会、国際学会に分けて記載する。)	
番 号	発表者名、演題名、学会名、場所、年
	(国内学会) *シンポジウム
1	<u>華岡太郎</u> : Dynorphin(1-13)のモルヒネ鎮痛と耐性形成におよぼす影響. 第6回鎮痛薬オピオイドペプチドシンポジウム, 長崎, 1996
	*一般演題
2	<u>華岡太郎</u> : モルヒネ鎮痛の胎児脳形成に及ぼす影響について. 第3回脳神経学術集会, 大阪, 1996
	(国際学会) *シンポジウム
3	<u>Hanaoka T</u> , Saika M and Minakata K: Expression and regulation of neuropeptides in ratfacial motoneurons. VII International Symposium on Facial Nerve, Cologne, Germany, 1992
	*一般演題
4	<u>Hanaoka T</u> , Saika M and Minakata K: Halothane constricts mesenteric artery transiently by releasing Ca ⁺⁺ from the sarcoplasmic reticulum. Annual Meeting of American Society of Anesthesiology, New Orleans, USA, 199

加 入 学 会 お よ び 社 会 に お け る 活 動 (主な学会名、役職名および学術雑誌の編集委員等を記入する。併せて、加入・活動期間等も記入する。)	
(加入学会)	
○日本××学会 (平成17年4月～現在) 評議員 (平成24年4月～現在)	
○和歌山▲▲学会 (平成18年1月～平成20年12月) 事務局責任者 (平成19年4月～平成20年12月)	
○近畿■●学会 (平成22年4月～現在)	
(学術雑誌の編集委員等)	
○Deputy Editor Brain Res. (平成23年4月～平成25年3月)	
(その他社会における活動)	
○日本学術振興会◇◇委員会専門員 (平成21年12月～平成22年11月)	